

サッカー女子W杯 キス騒動 欧州は「ボス政治」と決別できるか

スペインの「ボス政治」



木村 正人
在英国際ジャーナリスト



サッカー女子W杯初優勝を果たしたスペイン代表（スペインサッカー連盟の旧ツイッター・Xから）

サッカー女子ワールドカップ（W杯）初優勝を果たしたスペイン代表。同国サッカー連盟のルイス・ルビアレス会長が表彰式でジェニファー・エルモソ選手の唇にキスをした「キス・ゲート」が世界中を巻き込んだ騒動に発展した。その反動で反フェミニズムの嵐も巻き起こった。同意のないキスが性的暴行に当たるか否かという以上に、独裁者フランコ（1892～1975年）時代を彷彿とさせる「カウディーリョ（強大な権限をもつボス）の寡頭政治」への拒絶反応がある。

マチズモ文化が残るスペインサッカー界

日本でも2021年に「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかる」という女性を見下した発言で東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長が引責辞任に追い込まれる騒動があった。森氏は陳謝し「私自身は女性を蔑視する気持ちは毛頭ない」と釈明したものの、最後まで愚痴や恨み節を重ねて世界中に日本の後進性をさらけ出した。

男女格差の現状を測る世界経済フォーラム（WEF）の「世界男女格差報告書」23年版によると、男女格差が小さいのは欧州連合（EU）主要国ではドイツ6位、英国15位、スペイン18位、フランス40位、イタリア79位の順。ちなみに米国は43位、日本は125位。国際組織「列国議会同盟（IPU）」によると下院（衆院）の

女性議員比率はスペイン44%、日本10%である。

W杯表彰式でのキス騒動は日本のように女性の社会進出が遅れているから起きたのではない。急激に進んだスペインだからこそ大きな論争に発展した。マチズモ（南米で賛美される「男らしい男」という意味）文化が残る同国サッカー界で強大な権力をもつボス（ルビアレス会長）に逆らえば代表チームから外されるという前近代的な体質にスペイン社会がノーを突きつけている。

たかがセクハラと軽んじるなかれ。森氏のようなジェンダーに対する無神経さは海外ビジネスでは命取りになる。

連盟会長「偽りのフェミニズム」を攻撃

ルビアレス会長のセクハラ度も常軌を逸している。レティシア王妃と16歳の娘ソフィア王女のすぐ隣で決勝戦を観戦した際、優勝に興奮して股間を鷲掴みにする仕草をTVカメラに撮られた。王妃の肩を抱いたり、試合終了後、ピッチ上でアテネア・デルカステージョ選手を肩に担ぎ上げたりしたことも世界中に発信された。

スペインサッカー連盟の臨時総会で、ルビアレス会長はW杯決勝での出来事について「率直に」謝罪したものの「彼らは正義を行おうとしているのではなく、社会的殺人を行っている。彼らは私を殺そうとしている。私の個人的な状況を超えて、スペイン人として私たちは私たちがどこへ行こうとしているのか考えなければならない」と持論を展開した。

キス騒動の背景を探るため会長発言の引用を続けよう。「彼らは100件以上の訴訟、嘆願書などあらゆる手段で私を追いかけてくる。偽りのフェミニズムは正義と真実を追わず、メダルを首にぶら下げて前進しているというだけだ。本物のフェミニズムは全く正反対だ。本当に性的暴行を受けた女性たちはどう思うだろうか」とルビアレス会長はまくし立てた。

昨年にも女子選手15人が代表監督に反乱

「私を公に暗殺しようとしている人たちに対し法廷で自分を守るつもりだ」とルビアレス会長は法廷闘争を宣言。エルモソ選手へのキスが巻き起こした騒動についても「優勝で高揚し、自然発生的なものでお互いに同意の上だった。この選手は決勝戦でPKを外したが、私はすべての選手と素晴らしい関係を築いており、1カ月以上家族として過ごしてきた」と強弁した。

「私たちは倒れそうになり、彼女は私を腕の中に引き上げて体を引き寄せた。私が『PKを外したことはもう忘れる』と言ったら、彼女は『意地悪ね』と答えた。『突っついていいか（唇に軽くキスすること）』と尋ねると『OK』という返事だった。彼女は笑いながら去っていった。それだけだ。私には支配欲も地位乱用もないことをすべての人々が理解している」

王妃と王女の隣で股間を鷲掴みにする仕草したことについてだけ、ルビアレス会長は強い後悔を示し「高揚のあまり体の一部を掴んでしまったことをはっきりと謝りたい。女子代表のホルヘ・ビルダ監督も昨年いろいろなことを経験した。彼らは私にしたかったことをビルダ監督にもしたかった」と連盟幹部の息子であるビルダ監督に対する反乱にも言及した。

昨年のUEFA欧州選手権準々決勝で敗れた後、女子選手15人が「ビルダ監督の下ではプレーしない」と連盟に通告した。ビルダ監督は選手たちが寝静まったのを確認するため部屋のドアを開けておくよう強要したり、買い物に出かけた選手たちのバッグをチェックしたり、キャンプの外で誰と会うかを報告するよう求めたりしていたと一部で報じられている。

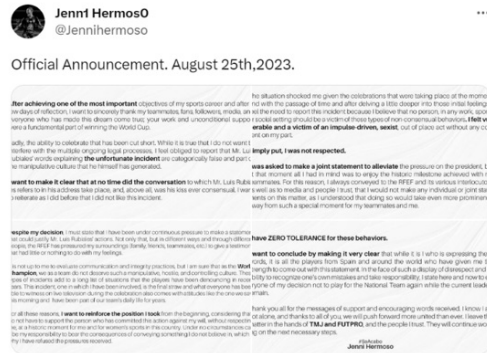
「辞任はしない」と5回も繰り返す

このとき、ルビアレス会長は女子選手の言い分に全く耳を貸さず、ビルダ監督を続投させた。そればかりか「代表チームに戻りたいなら、自分たちの行動を謝罪しろ。さもなくば2～5年の出場禁止処分を科す」と選手たちを恫喝した。結局、W杯の代表メンバーに選ばれたのは今大会最優秀選手に輝いたMFアイタナ・ボンマティ選手ら3人だけだった。

ルビアレス会長は「ビルダ監督と私は共に苦しみ、歩んできた。W杯で優勝したとき、私はコントロールを失うほど感情的になり、そこに手を置いてしまった。私はビルダ監督によくやったというサインを送っただけだ。王妃と王族、気分を害された方々にはお詫びする。言い訳ではなく、私は今までそのような振る舞い

をしたことがない」と弁解した。

「辞任はしない」と5回も繰り返し、「偽りのフェミニズム」とエルモソ選手を攻撃したルビアレス会長はビルダ監督やルイス・デ・ラ・フエンテ男子代表監督ら連盟幹部から拍手喝采を浴びた。一方、エルモソ選手は「ルビアレス会長の言葉は決定的に虚偽であり、彼自身が生み出した操作文化の一部だ」と指摘するコメントをX（旧ツイッター）に投稿した。



8:24 PM · Aug 25, 2023 · 10.3M Views

29.5K Reposts 2,985 Quotes 130.6K Likes 1,704 Bookmarks

エルモソ選手のXへの投稿

「彼のキスは決して合意の上で行われたものではなかった。私の言葉が疑われるのは許せないし、ましてや私が言ってもいない言葉が捏造されるのも許せない。私は弱い立場にあり、自分の同意なしに衝動に駆られた性差別的で場違いな行為の被害者だと感じた。単純に私は尊重されていなかった」

「ルビアレス会長が辞めるまで代表でプレーしない」

「スペインサッカー連盟はさまざまな方法で、さまざまな人々を通じ、私の周囲（家族、友人、チームメイトなど）に私の感情とは全く関係のない証言をするよう圧力をかけてきた。この種の事件はここ数年、私たち選手が報告してきた状況の長いリストに加わる。これはラクダの背中を折る藁だ」。実はエルモソ選手は8年前から連盟の改革を求めてきた。

1988年から2015年までスペイン女子サッカー代表監督を務めたイグナシオ・ケレダ前監督について、元選手たちがドキュメンタリー映画『沈黙を破る』で「恐怖、偏見、性差別、同性愛嫌悪の文化が横行していた。ケレダは、同性愛は病気で根絶したいと考えていた」と告発している。W杯初優勝という歴史的歓喜の瞬間に女性選手たちの怒りの水門は開かれた。

エルモソ選手は「私と女子スポーツにとって歴史的

な瞬間に私の意思に反してこの行為を行った人物を支持する必要はない」と言葉を強め、現在の指導者たちが残る間は代表チームで二度とプレーしないと決意を表明した。女子W杯優勝メンバー23人全員を含む81人の男女選手が、ルビアレス会長が辞めるまで代表チームでプレーしないことに署名した。

ルビアレス会長は釈明動画と一緒に出るようエルモソ選手を説得したが、断られると「W杯で優勝した喜びのあまり、全く自然発生的なお互いのジェスチャーでした。会長と私は素晴らしい関係にあり、愛情と感謝の気持ちを込めた自然な振る舞いでした」というエルモソ選手の談話を勝手にでっち上げて地元メディアに流していた。

女性蔑視と家父長的ボス政治

東京五輪・パラリンピック大会組織委員会の元理事が大会スポンサー企業から賄賂を受け取ったとして東京地検特捜部に逮捕され、事件は複数のスポンサー企業や大手広告会社にまで広がった。この事件は森氏の女性蔑視発言と家父長的ボス政治の腐臭と決して無縁ではない。ルビアレス会長の周辺でもサッカー利権を巡るスキャンダルが取り沙汰されている。

スペインのペドロ・サンチェス首相=スペイン社会労働党 (PSOE) 書記長=は「ルビアレス会長の振る舞いは容認できず、謝罪も十分とはいえない。選手たちは勝利のために全力を尽くしたが、平等のためにはまだ長い道のりがあることを示している」と旗幟を鮮明に示した。ヨランダ・ディアス第二副首相はルビアレス会長の辞任を要求した。

サンチェス政権は23人の閣僚のうち3人の副首相、国防相を含む12人 (52%) が女性で、男女がそれぞれ閣僚の40%以上を占めることを義務付けるクォータ制の導入を計画している。イレーネ・モンテロ男女共生相 (平等相) は「キスは日常的な性的暴力であり、女性はそこから保護される必要がある」と批判を強めた。

米国でジョー・バイデン大統領がドナルド・トランプ前大統領の復活を抑え込もうとしているように、スペインでも穏健左派PSOEと急進左派ウニドス・ポデモスの連立政権は極右の台頭と闘っている。今年5月の統一地方選で保守の国民党が3030議席、極右ポピュリスト政党ボックス (VOX) が1148議席増やし、国内外に激震が走った。



スペインのサンチェス首相 (C) European Union

左派を動員し、極右政党の政権入りを阻止

フランコの死後、民主化したスペインで極右政党が初めて政権入りすれば歴史的転換点となる。7月に前倒して総選挙が行われ、国民党が48議席増やし第1党になったものの、VOXは19議席減らし、両党を足しても過半数に達しなかった。保守と極右の連立が欧州を一段と右傾化させる懸念より現在、スペインでは政権を樹立できるか否か不安定な時が続く。

極左を含めて左派を動員し、極右政党の政権入りを阻止することに成功したサンチェス首相はカタルーニャ自治州の独立派勢力に接近するなど議会内の多数派工作を進める。連立協議がまとまらなければ再選挙の可能性もある。そんな最中に起きたキス騒動はスペインの「#MeToo」運動に火をつけた。

米ハリウッドの映画プロデューサー、ハーヴェイ・ワインスタインの性暴力、アンドルー英王子をも巻き込んだ米富豪ジェフリー・エプスタイン被告=自殺=の性的虐待事件をきっかけに世界中に「#MeToo」運動が広がった際、フランスを代表する往年の大女優カトリーヌ・ドヌーブや仏女性作家、役者、学者ら100人が男性に女性を「口説く自由」を認めるべきだと反論したことがある。

ピューリタニズム (清教主義) が根付く英国や米国はジェンダーには厳格で、フランスやイタリア、スペインなどカトリックが多いラテン系国家ではその線引きが甘い。今回のキス騒動は南米のスペイン語圏や6370万人に達した米国のヒスパニックにも影響を与えるのは必至だ。

サパテロ首相「反マチズモではなくフェミニストだ」

スペインで不倫が犯罪でなくなったのは1978年。フ

ランコ時代は禁止されていた離婚が再び認められたのは81年。レイプや母体の健康に危険がある場合などの中絶は85年になって非犯罪化された。一方、英国では16世紀にヘンリー8世が離婚してローマ・カトリック教会から離脱している。

スペインのホセ・ルイス・ロドリゲス・サパテロ首相 (PSOE) は2004年「私は単なる反マチズモではなくフェミニストだ」と宣言、過半数を女性閣僚にする方針を掲げた。16年7月、牛追い祭りの最中、パンプローナで18歳の女性が5人組の男たちにレイプされた。女性の権利を主張する何十万人もの人々が街頭に繰り出し、性差別の文化的背景を批判した。

男たちは性的虐待の罪で禁錮9年の判決を受けたが、レイプの罪では無罪となり、物議を醸した。スペインの最高裁は後に判決を覆し、レイプの罪で禁錮15年の判決を下した。昨年、モンテロ男女共生相は「イエスだけがイエスという意味」として知られる新しい同意法を導入。同意があったと仮定することは認められず、性的虐待とレイプの区別を廃止した。

英紙デーリー・テレグラフによると、スペイン社会の進歩的な改造に反対する者たちは「フェミナチ」という言葉をフェミニストに投げつけ、女性の権利を拡大する動きに抵抗した。中でもVOXはフェミニズムに対する反撃を主導してきた。ドメスティック・バイオレンスからジェンダーの視点を抜いて「家族内暴力」として扱い、中絶法や性的少数者LGBTQ+の権利を一掃することも宣言している。

「くそつたれのホワイトハウスになんか行くもんか」

W杯決勝でスペインに敗れたイングランド代表が昨年のUEFA欧州選手権で初優勝したとき、優勝ゴールを決めたクロエ・ケリー選手はユニフォームを脱いで頭の周りで振り回し、スポーツブラを見せてイエローカード（警告）を受けた。ケリー選手のパフォーマンスは世界中の女性を団結させ、自己主張するパワーを与えたと称賛された。

19年女子W杯フランス大会で、2大会連続で最多となる4度目の優勝を果たした米国代表のミーガン・ラピノー選手は大会最優秀選手に選ばれた。人種・性的差別的なトランプ大統領（当時）に抗議して「W杯に勝っても、くそつたれのホワイトハウスになんか行くもんか」と宣言し、ピッチ外でも注目を集めた。

今、欧州だけではなく世界中がジェンダー、移民・難民、気候変動政策を巡り対立している。W杯のキス

騒動は単なるセクハラでは済まされない政治的なインパクトをもつ。ウクライナ戦争が影を落とす欧州ではエネルギー危機、インフレによる「生活費の危機」で低所得者層の不満が膨らみ、立場の弱い移民・難民を標的にする極右が勢力を拡大している。

イタリアではすでにネオ・ファシスト系政党の流れをくむ「イタリアの同胞」のジョルジャ・メローニ首相が誕生し、国家アイデンティティーの促進や伝統的な家族観擁護、移民制限を約束する法案を打ち出している。来年6月に迫る欧州議会選で極右の「ドイツのための選択肢」、フランスの「国民連合」が台頭すれば欧州政治の右傾化は一気に進む。



男子W杯で優勝したリオネル・メッシ選手を連想させるエルモソ選手の写真 (Xへの投稿から)

ルビアレス会長とビルダ監督の歪んだマチズモがスペイン女子代表をW杯初優勝に導いたわけではない。世界中の少女が胸をときめかせたW杯決勝で女子選手は「男の従属物」として扱われるべきではなかった。ルビアレス会長と闘うエルモソ選手への支援の輪は世界中に広がっている。この闘いの行方は来年11月の米大統領選にも影響するだろう。

ルビアレス会長は9月11日「FIFA（国際サッカー連盟）による処分に加え、公的な手続きも残っており、元のポジションに戻れないことは明らかだ。待ち続けることに固執しても連盟にとってもスペインサッカーにとってもプラスになることは何もない」として会長職をようやく退いた。

(9月12日執筆)

